



逆境は優れたリーダーを創る

ビヨンドトゥモロー 活動ハイライト

2022 - 2023年度 (4月 - 3月)

April 2022 - March 2023 Activity Highlights



コロナ禍を乗り越えて

繋がることを大切に

未来を見据える

目次

- P.4 ご挨拶
- P.5 奨学金給付事業 22年度報告
- P.6 人材育成事業 22年度報告
- P.12 卒業生アンケート調査
- P.15 卒業生たちの今
- P.17 役員・応援サポーターからのメッセージ
- P.18 ご協力企業様からのメッセージ



自分は起業したいと思っているため、その時のチーム作りや他の人とのコミュニケーションに活かせると感じた。「自分一人ではできないようなことも、互いに信じ合える関係性であれば、挑戦していける」と思った。

花が咲かないのは、花自体ではなく周りの環境が悪いのと同じように、ハワイ（海外研修）での私は土、水、光、空気全て整っている環境で花を咲かせられたのだと思いました。ハワイプログラムに参加している時の私が今までの私の中で一番好きでした。

ビヨンドトゥモローでは普通の人では経験できないことをたくさん経験することができた。これらの経験を将来、小学校教諭になった際に子供たちにたくさん伝えて、子供たちの視野を広げられる教師になりたい。今後自分がつらいときに「ビヨンドトゥモローのみんなも頑張っているのだから自分も頑張ろう」と自分を鼓舞していきたい。



一年を振り返って

一般財団法人教育支援グローバル基金
代表理事

橋本 大二郎 (元高知県知事)



いつもビヨントゥモローの活動を、温かく見守って下さり有難うございます。

この一年間は、いくつかの変化が生まれた年でした。その一つは、ビヨントゥモローの活動に限ったことではありませんが、ここ数年続いた新型コロナの波が収まったため、沖縄、長野、東京、山梨、さらにはハワイでの海外研修と、みんなが顔を合わせての、対面でのプログラムを組むことができるようになりました。

この間、オンラインのプログラムの技を磨くことが出来ましたが、その一方で、全員が同じ場を共有して、お互いの表情や息づかいを直接感じることのできる距離感は、かけがえのないものだとあらためて実感しました。

もう一つの変化は、ビヨントゥモローの運営体制で、社会人一年目と二年目という若いスタッフが加わって、2人の先輩とともに、新たな挑戦に取り組んでいます。特に力を入れているのが、活動の基盤を強化するためのファンドレイジングで、昨年秋に開催したリーダーズサミットに向けては、初めてクラウドファンディングにも挑戦しました。まだまだ、高い壁がいくつもありますが、貧困や虐待といった逆境に立ち向かう若者を応援するためには、しっかりとした基盤づくりが必要だと心に銘じています。

そんな中、去年・今年と、ビヨントゥモローの奨学生を体験した“卒業生”（大学生）が、インターンという形で、年間を通じて、プログラムの運営に携わってくれるようになりました。「高校生にとっては、ビヨントゥモローに応募するのも勇気がある、だから、応募者向けの説明会を開きたい」とか、「自分の経験を活かして、誰かの“心の命”を救えたら」といった抱負を聞いて、きっと我々の目の届かないところにも、心を配ってくれるだろうと期待をしています。

また一年、みんなで力を合わせて、さらにより良い居場所づくりに努めていきます、引き続き、応援をよろしくお願いいたします。

2022年度 活動ハイライト

奨学金 給付事業

ビヨンドトゥモローは、親との死別・離別や、虐待・ネグレクト、貧困などの困難を経験しながらも、将来、社会に力を添える志と資質を持つ若者に、進学のための返済不要の奨学金を支給しています。奨学金を給付型にすることで、学生は将来的な負債を抱えたり、生活費の心配をしたりすることなく、学業に取り組むことができます。2022年度は、21名の学生を奨学生として迎えました。

例年、多くの応募がありますが、選考においては書類選考と面接を行い、各界で活躍するエキスパートにより構成された選考委員会が奨学生を決定しています。合格者の出身地、学力、進路、バックグラウンドは様々ですが、それぞれの道で自分が人の役に立つ存在になるべく、将来を模索しています。

「ジャパン未来スカラーシップ・プログラム」

対象者：大学・短大・専門学校在籍者
年度実績：11名



大学・短大・専門学校に在籍する1年生を対象に、年間50万円の給付型奨学金を支給しています。日本全国から、親との死別・離別を経験したり、児童養護施設に暮らすなどの困難を経験した若者が集い、返済不要の奨学金を受給しながら年間を通じた人材育成プログラムに参加します。

「ジャパン未来スカラーシップ・プログラム2022」には11名が奨学生として選拔され、1年間を共に歩みました。

「エンデバー」

対象者：高校生2、3年生
年度実績：10名



児童養護施設、里親家庭に暮らす高校生を対象に、進学準備に必要な受験費用（給付型奨学金）と人材育成プログラムへの参加機会を提供。虐待やネグレクトなど、様々な事情で保護された子どもたちが多い児童養護施設では、高校卒業後の進学率が全国平均を大きく下回ります。「エンデバー」プログラムへの参加を通し、学生が主体的に自らの将来を考え、進学を目指すことで、未来を切り開く過程をサポートしています。2022年度は、10名を奨学生として迎えました。

人材育成 事業

新型コロナウイルスの拡大に伴ってスタートしたオンライン人材育成プログラムは、2022年度においても、日本各地に散らばった学生たちが一堂に会せる貴重な機会として実施されました。学生たちは物理的な距離を超えてオンライン上で交流し、お互いの学び合いを促進することができました。

さらに、今年度の人材育成事業では、対面プログラムも5回実施することができました。3年ぶりに開催が実現した「ジャパン未来リーダーズ・サミット」や、夏休み期間中のサマー・リトリート、サマー・キャンプ、そして海外研修など、異なる規模や開催地、テーマなどによるリーダーシップ・プログラムを開催しました。

オンライン・プログラム実績

オリエンテーション・プログラム	開催日：2022年3月19日 「互いを知る、これからビヨンドトゥモローで 学びたいことの目標設定」
5月オンライン・プログラム	開催日：2022年5月4日 「リーダーから学ぶ」 ゲストスピーカー：羽生 善治氏
5月学生のための金融講座 アコム株式会社様ご提供	開催日：2022年5月26日 「金融リテラシーを身に付つける」
6月オンライン・プログラム	開催日：2022年6月25日 「リーダーから学ぶ」 ゲストスピーカー：認定NPO法人 夢職人 理事長 岩切 準氏
1月オンライン・プログラム	開催日：2023年1月28日 「リーダーから学ぶ」 ゲストスピーカー：認定NPO 法人 very 50 代表理事／創業者 菅谷 亮介氏 副代表 谷弘 望氏
クロージング・プログラム	開催日：2023年3月18日 「1年間で得た学びの振り返り／共感力あるリーダーについて」 ゲストスピーカー： 長野県立大学グローバルマネジメント学部 准教授 中川 亮平氏 Children's Home Society of Idaho アンセルム・サディキ氏



「サマー・キャンプ」

開催地：東京都

開催期間：2022年8月11日～14日

対象：ジャパン未来リーダーシップ・プログラム参加奨学生

「ジャパン未来スカラーシップ・プログラム」に参加する、大学1年生を対象とした「スカラー サマー・キャンプ2022」を8月11日～14日に開催しました。

3泊4日の宿泊型で実施された対面プログラムでは、「グローバルシティズンとしてのダイバーシティ」を実現するための提言の作成を主軸とし、都内の大使館や難民の方を支援する団体の方々から伺った話を元に留学生やチームメンバーとのディスカッションを重ね、最終日には「グローバルシティズンをめざす私達が、日本における共生社会の実現のためにできること」をテーマに提言発表しました。

【主催】一般財団法人教育支援グローバル基金

【開催地】東京都

【参加者】ジャパン未来スカラーシップ・プログラム参加学生8名



「サマー・リトリート」

開催地：長野県

開催期間：2022年8月16日～19日

対象：エンデバー・プログラム参加奨学生

8月16日から19日の4日間、ビヨンドトゥモロウの奨学金事業「エンデバー」に参加する高校生を対象とした「エンデバー サマー・リトリート2022」を長野市にて開催しました。

高校生のみで実施された本プログラムでは、「若者が挑戦しやすい環境を作るためにできること」を高校生が主体となって考え、提言発表としてまとめるために、様々な企業・団体の訪問や人々との交流を行いました。

【主催】一般財団法人教育支援グローバル基金

【開催地】長野県長野市、上田市

【参加者】エンデバー・プログラム参加学生10名

【後援】長野県教育委員会、NHK長野放送局



「ジャパン未来リーダーズ・サミット 2022」

2022年10月（東京開催）

ビヨントゥモローにおいて最大のプログラムであるジャパン未来リーダーズ・サミットが3年ぶりに開催されました。BofA証券株式会社様のご協力により、会場をお借りし、奨学生だけでなく一般募集した参加者も含め、41名での開催となりました。親との死別・離別を経験したり、児童養護施設や里親家庭、生活保護受給世帯などに暮らす若者が集い、様々な領域で活躍するリーダーたちとの出会いや対話を通じ、「若者が孤独から立ち上がれる社会の実現」をテーマにグループ毎に提言をまとめました。

活動概要

開催日：2022年10月8日～10日

後援：文部科学省

ご支援：BofA証券株式会社

テーマ「若者が立ち上がれる社会の実現」

「孤独感」を抱える若者が増えていると言われる現代。多くの若者が孤独やつながり不足を身近に感じている中、孤独から立ち上がり自立して生きていくためには、どのような取り組みが必要で、高校生・大学生である自分たちに何ができるのかを考えることが今回のサミットのテーマでした。日本全国から集まった、様々な社会経済的困難を抱える学生が、彼らだからこそできる、当事者としての視点を盛り込んだ日本社会の未来へのアクションプランを作成し、最終日の閉会式で発表しました。

参加学生数 以下の条件を満たし、選考により選ばれた41名の高校生・大学生

保護者が死亡している	単親家庭 (母子家庭・父子家庭) に暮らしている	児童養護施設などの 社会的養護の 施設に暮らしている	里親家庭に 暮らしている	生活保護 受給世帯に 暮らしている
------------	--------------------------------	----------------------------------	-----------------	-------------------------

社会人メンターの方々 ※五十音順、敬称略

岡崎 祐吉

あしなが育英会
専務理事

籠島 康治

株式会社電通
クリエイティブ・ディレクター
／コピーライター

笹田 珠生

バンク・オブ・アメリカ 在日代表
BofA証券株式会社
代表取締役社長

柴山 徹

バンク・オブ・アメリカ・エヌ・エイ
東京支店 業務部

Jeong Haram

ジョン・ハラン
バンク・オブ・アメリカ・エヌ・エイ
東京支店 業務部

谷山 響

BofA証券株式会社
債券本部

Peter Walker

ピーター・ウォーカー
BofA証券株式会社
コンプライアンス部

宮崎 美絵

BofA証券株式会社
業務部



ゲストスピーカー

英利 アルフィヤさん

衆議院議員
※リーダーズ・サミット2022 当時：自民党参議院比例区 支部長

スピーカーセッションをもとに
ディスカッション

学生の学び
「最終日の提言発表」

最終日は、8つの班がそれぞれ考え抜いた自らのアクションプランを、ゲストや審査員の皆様の前で発表しました。ゲストや審査員の方々には、政治・行政・ビジネス・メディア・NGOなど各方面のリーダーが集い、学生の発表を見守りました。学生達は限られた持ち時間のなか、全学生が提言発表プレゼンテーションを行い、審査員による投票にて優勝チームが決定されました。

提言発表会ゲスト

加藤勝信 厚生労働大臣

竹中平蔵 慶應義塾大学名誉教授

提言発表審査員

箕浦 裕

BofA証券株式会社 上席顧問

佐々江 信子

信子フォーラムジャパン 代表

小宮山 利恵子

スタディサプリ教育AI研究所 所長
東京学芸大学大学院 准教授

大空 幸星

NPO法人 あなたのいばしょ 理事長

橋本 大二郎

元高知県知事
一般財団法人教育支援グローバル基金 代表理事

上滝 賢二

元NHK 理事
一般財団法人教育支援グローバル基金 監事



リーダーズ・サミット
に参加した
学生の感想

みんなと悩みを分かち合う前は、私はそんなに辛くないと思っていたけど、話している内に言葉に詰まったり、涙がこみあげてきて、「ああ、私はただ過去を胸に閉じ込めていたんだな」と感じました。

私は、人は安心できる場所があると挑戦や冒険がしやすくなると思っています。ビヨントゥモローは、私にとって安心できる場所になりました。サミットで出会ったみなさんは、私の頑張る源です。思い出すだけで頑張ろうと思える、自分の原点となるような経験ができたことは、間違いなく私の人生の大きな糧となると思います。

「リーダーとして引っ張ってくれてありがとう、会えて良かった。」と言ってもらえ、ビヨンドに来れ、この場に参加できて本当に良かったと思えた。

『米国スプリング・プログラム 2023』

2023年2月（米国ハワイ州）

2023年2月20日～28日に、約3年半ぶりの海外研修となる、米国プログラムをハワイ州にて実施しました。事前選考により、2020年度～22年度の奨学生（大学生）から8名が選抜され、東京での事前研修を経て、ハワイ州を訪問しました。米国でも多様性指数の高いハワイで、社会における「多様性と共生」の現状を学ぶため、各所を訪問し、現地の人々との交流を重ねました。



【主催】一般財団法人教育支援グローバル基金

【支援】米日財団、NY日系人会・ジャパン・ソサエティー村瀬二郎記念基金、BofA証券株式会社



渡航当日の事前研修の様子

現地での交流を通し、学生達はハワイの人々がどのように多民族社会を築き上げ、他者を受け入れてきたか、お互いを尊重し合うための考え方や取り組みについて知る機会を持ちました。また、様々な団体、個人との出会いを通し、グローバルな視野を持つ大切さやリーダーとしての心構えを感じることができ、今後に向けてモチベーションを大いに高めることのできる研修となりました。

NY日系人会・ジャパン・ソサエティー 村瀬二郎記念基金

本事業は、日米両国の架け橋として活躍された故村瀬二郎氏のご遺志を継ぎ、日米交流の担い手となる若者がアメリカの空気に触れ、多くのアメリカ人に出会い、米国社会について学ぶことを目的とした「村瀬二郎記念奨学事業」として、米日財団、ニューヨーク日系人会及び多くの方々のご支援により開催されました。



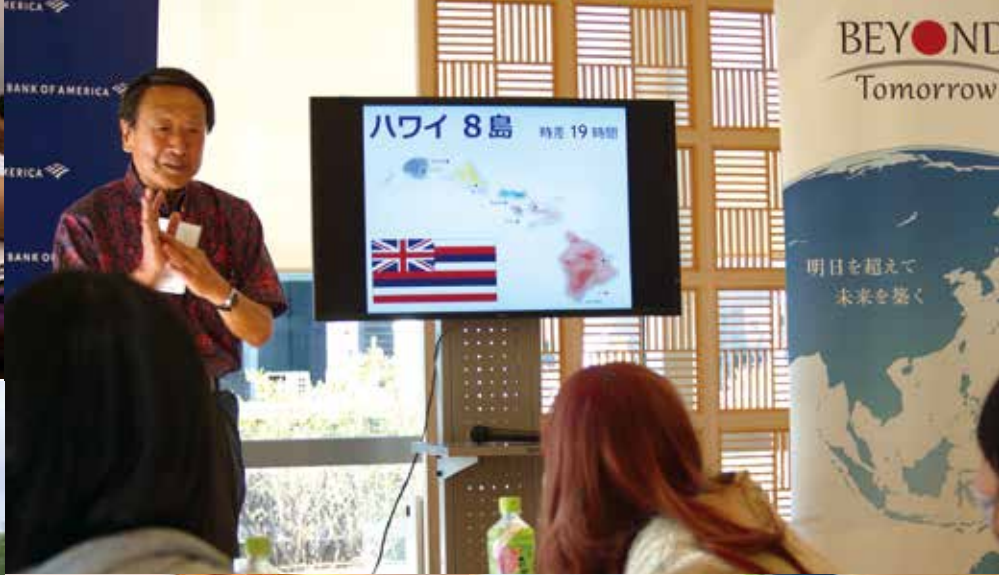
早見優さんとのトークセッション

学びの発信

米国研修に参加した学生達は、帰国前にオンライン発表会にて現地での学びを一人ひとりが英語で発表しました。また、帰国後には、「誰もが暮らしやすい社会づくりのために、私たちにできること」というテーマでチームプレゼンテーションを行いました。ハワイで学んだ多様性と共生の学びを、自分ができるアクションとしてアイデアをまとめ、アウトプットしました。



BofA証券株式会社の社員ボランティアの皆さんと英語でのコミュニケーションワークショップ



ビヨントゥモロー 奨学生プログラム 経験者向け アンケート調査

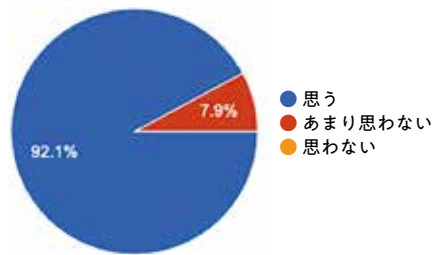
ビヨントゥモローに参加したことのある奨学生の数は170名を超えています。東日本大震災の支援で始まった当初は被災した学生のみを対象としていましたが、その後支援の対象を広げ、現在では日本全国から学生が集まるようになりました。彼らはその後、どのように社会に羽ばたいているのでしょうか？私達が掲げる「逆境は優れたリーダーを創る」という理念は、奨学生の糧として人生をどのように後押しできているのでしょうか？そんな疑問から、今回ビヨントゥモローに参加経験のある元奨学生を対象に、初めてアンケート調査を実施しました。

対象者	調査期間	方法	質問数	回答者数
2011年度～2021年度にビヨントゥモローの年間奨学生プログラムに参加した176名 <small>(東北リーダーズサミットやジャパン未来リーダーズサミット等の単発プログラムにのみ参加した者は含まない。)</small>	2022年12月20日 ▼ 2023年1月15日	WEBアンケート <small>(選択回答および記述形式)</small>	35問	38名

アンケート 回答

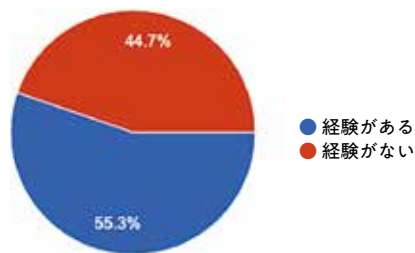
伝える力

ビヨンドでの経験が、「自分の意見を他者に伝える」能力を伸ばしてくれるものだったと思いますか？
(自らの感情や意見を、よりクリアに伝えられるようになったと感じますか?)



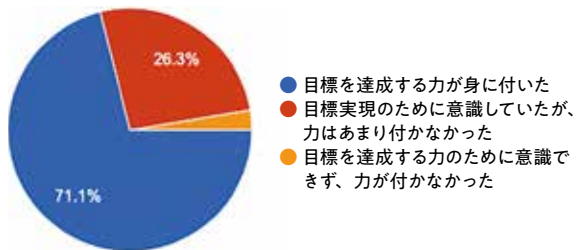
主体性

ビヨンドに参加したことがきっかけとなって、なにか社会問題の解決のためにアクションを起こした経験はありますか？



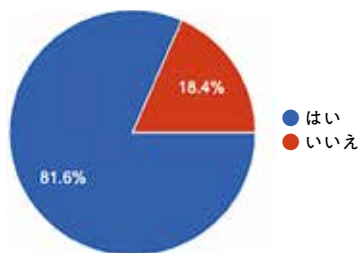
やりぬく力

活動をする中で、目標を達成する力が身につきましたか？また、それを実現するために意識しながら活動をしていましたか？

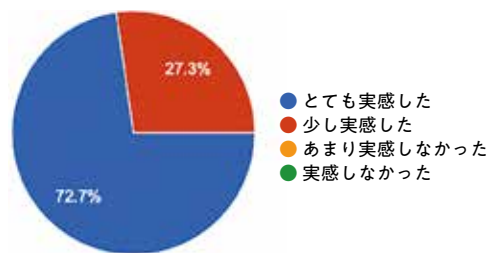


〈海外研修について〉

ビヨンドに参加したことで、海外への関心が増したり、より身近に感じられたりしましたか？



実際に海外研修に参加したことで、自らの視野の広がりを実感しましたか？



調査の目的

この10年間に奨学生プログラムを提供した学生に対し、意識調査を行いました。対象は、ビヨントゥモローのプログラムに参加した学生です。目的は、参加者本人が感じる考え方や行動の変化、グローバルな視野の広がりやリーダーとしての意識の獲得、他人への共感力、困難への向き合い方などを明らかにするためです。また、この調査では、ビヨントゥモローの活動が参加者の人生の選択やキャリアにどのように役立っているかについても聞きました。参加者がプログラムに参加する前と後の変化を比較し、プログラムの効果を評価します。調査結果は、プログラムの改善や将来の奨学生支援活動に活かされます。

調査結果

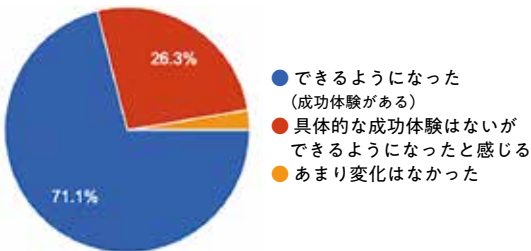
卒業した奨学生の中には、既に住所が変わっていたり、携帯番号やメールアドレスの情報が入手できなかったりして、調査対象者全員にアンケートの情報を届けることが難しい状況でした。そのため、期待していたほどの回答数を得ることはできませんでした。しかしながら、回答してくれた元奨学生からの結果を見ると、驚くほど前向きな回答が多く、過去の逆境を感じさせないものとなっていました。彼らの回答は、私たちの活動の効果を示唆するものであり、学生一人ひとりの内面や成長に働きかける活動が実を結ぶ内容でした。

アンケートの構成

調査では「考え抜く力」、「チームで働く力」、「レジリエンス」、「前に踏み出す力」などの能力要素に関する質問を行いました。回答者には自身がそれぞれの要素にどの程度当てはまるかを段階別に回答してもらいました。また、彼らが海外研修やビヨントゥモローへの参加を通じて得た気づきや実感する変化についても、記述式の回答を求めました。これにより、回答者自身がどのような成長や変化を体験し、能力の向上につながったのかを具体的に把握することができました。

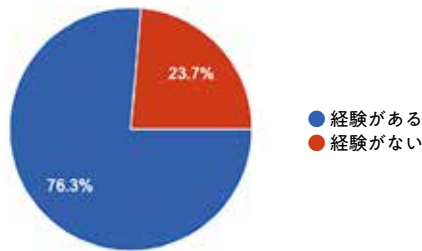
共感力

ビヨンドに参加して（多様なバックグラウンドを持った仲間との関わりを通して）、人の多様な生き方や考え方を認めることができるようになりましたか？



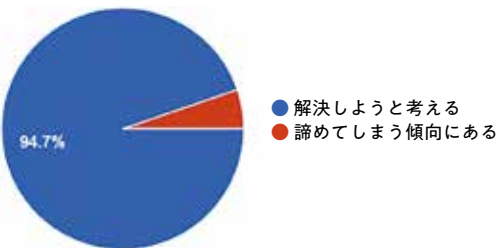
創造力

ビヨンドの活動に参加した後、あなたのいる環境で周りの人が実行していない活動を（どんなに小さくても）新しく始めたことがありますか？



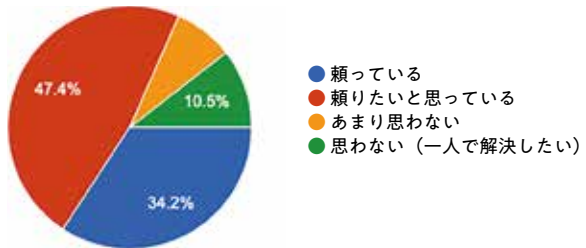
レジリエンス

自身の夢や目標の達成に向けて壁がある時、諦めてしまう気持ちがありますか？それとも自らの思いに耳を傾けて、他の方法で解決しようと考えますか？



頼る力

問題が起こったときに、誰かに頼ることはできますか？もしくは今後そのような状況に置かれた時に相談しようと思えますか？



Q 海外の経験がその後の実生活において役立ったと感じることはありますか？

学生の声

コミュニケーションの取り方が大胆になった。大学院留学へつながった。

各界で活躍されている方から直接メッセージをいただいたり、海外で活躍されている日本人の方にお会いすることで自分の目標の一つになった。

大変だったけれど自分にもできるという自信になったから他のこともなんとかできるよう思えた。

海外研修で、たくさんの人からお話を伺い、今ある問題を知り、どれだけ日本という場所に住んでいることが恵まれているのか痛感しました。その問題が一つでも多く解決できるように今後自分がどのように学んでキャリアを積んでいくのか具体的に目標が立てられました。

Q ビヨンドトゥモローに参加する前、参加中、そして参加後に自分自身に何か変化はありましたか？あったとすれば、それはどのような変化でしたか？

参加する前は自分が児童養護施設にいたり、施設の職員のことがすごくコンプレックスで、将来に希望を持つことができませんでした。しかし、参加後自分の意見を話すという目標を達成したり、同じような境遇でも夢に向かって頑張っている同級生を見たり、私の良さを見つけてくれる存在を活動の中で見つけることができたことにより、今までコンプレックスであったことが経験して良かったこと、たくさんお世話になった人であると考えられるようになりました。

自分のやりたい事へ挑戦出来るようになった。実際に進学を諦めかけていたが学びたいことがあったので進学を決めました。

よく内省するようになった。落ち込んだり怒ったりしたときに原因を考えたり落ち着いてから客観的に考えるようになった。

議論を収束させる力がついた。逆境に対して挑戦的なマインドは参加前から高かったが、他者の生い立ちや置かれた境遇をより広義に捉えることができるようになり、共感力が深まった。

プログラムに参加したことで、地元にはいない方々（政治家、起業家、士業含む有名企業のサラリーマン）の話を聞く機会に恵まれ、彼らの社会にいかにか還元をするかという強い使命感に感化された。自分も与えられた環境の中で最大限に「成長」し、何らかの形で世の中に還元したいと考えられるようになった。

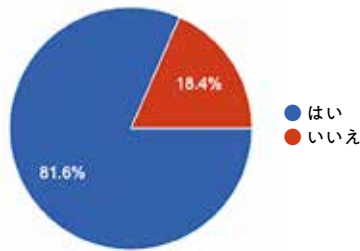
自分のままに
向き合える
ようになった。

参加する前はただの平凡な高校生、参加したあとは議論中に意見を積極的に発言し、他者に想いを馳せる高校生に。

将来を考える上で「どうせ無理」と思うことが少なくなり、何事も可能性を探ってから決めるような意識が芽生えた。

曖昧な夢を持っていたが、他の参加学生の進路やビジョンなどを聞いて、「こんな漠然としていたら大きな壁に当たった時にすぐ諦めてしまう」と思い、改めて自分が本当にしたい職業なのか？その職について何ができればベストなのか夢や目標について考えるきっかけをとても与えてくれた。

自分の人生に満足していますか？
(今、自分は幸せだと感じますか?)



2011年の発足から、皆様の多大なるご支援・ご協力により、これまで様々な学生と出会い、その成長を見守ることができました。

今回のアンケート調査に回答してくれた学生は、全体のごく一部ではありますが、彼、彼女らがビヨンドトゥモローの活動に参加して、自分自身の変化を感じ取ってくれていたこと、またこれからは挑戦していくという前向きな姿勢を持ち続けてくれることは、人材育成プログラムに重きを置いてきたビヨンドトゥモローにとり、とても嬉しいことです。

これからも、逆境にある学生達の一人ひとりに寄り添い、その成長の過程を見守っていきます。



白井栄子さん（仮名）

放課後アフタースクールを運営する非営利団体
拠点責任者



ビヨンドトゥモローに参加したきっかけは、「逆境は優れたリーダーを創る」というミッシェンに惹かれたことでした。東日本大震災での被災経験を、自分の未来に、そしてより良い社会を作っていくためにどう活かせるのか、その答えをビヨンドで見つけることができるのではと思えました。「絶対に成長できる！」と思ってわくわくしていたのを覚えています。

当時、大学では、専門の英文学の研究がとても楽しく、大学院に進学するぐらい熱心に取り組んでいました。研究室生活に加え、サークルの幹部として活動したり、レストランで5年間アルバイトを続けたり、4年間暮らしていた学生自治寮の運営を頑張ったりと、今思い返してもすごく多様なコミュニケーションに所属していました。色々な人間模様の中で面白い経験がたくさ

んで、充実した時間だったと思います。そして、ビヨンドトゥモローでは自分や他者、社会についてこれでもかというくらい考えさせられました。自分自身や課題に向き合うことは辛い時もありましたが、自分の気持ちを言語化して表現することで、殻を破り変わって行く仲間の姿を何度も見ることができました。また海外研修では、チームメンバーと限界まで話し合い、思考を深め、プレゼンやアイデアを磨いていく過程の中で、自分も含めチームのみんながリーダーとして成長していく姿を見られたので、とても良かったです。

今は「日本中の放課後をもっと安全で豊かにする」ことを目指した教育系のNPO法人で働いています。実はビヨンドトゥモローでの経験が志望業界を決める時の大きな決め手になりました。ビヨンドで目にしたような、カリキュラムや決まった教科課程がない学校外の場所での「人の育ち」や「人が成長していく場づくり」に関わる仕事をしたいと思っていたところ、今の小学校の放課後現場での仕事に出会いました。

メインでは都内の公立小学校内に開校している「放課後子供教室」を拠点責任者として運営し、子どもたちが思い通りに過ごすことができる居場所空間と様々な教育プログラムや体験活動を企画し提供しています。また兼務で、全国の放課後現場の質を向上させるために私たちの団体が持っているノウハウなどを広めたり、他自治体や拠点を支援したりする仕事にも関わらせていただいています。仕事の一番のやりがい

は、現場で働いているということもあって、自分のやりたいと思っていた「人の成長を一番身近で見られる」ところです。また、責任者として拠点運営のビジョンや戦略を立て、自ら意思決定を下しながら現場を作っていくので、裁量権がとても大きいという点も大きなやりがいです。多様なメンバーがいるチームをまとめることや、大勢の子どもたちと居場所・活動を作っていくことは、対「人」であるだけ、チャレンジだらけですが、だからこそ面白い仕事でもあります。

将来は、「教育」という軸はぶらさずに働いていると思います。今は「理想の現場を作り上げる」ということを個人のミッションとして仕事をしています。理想の現場を作り上げた後はそのノウハウをしっかりと言語化して、全国の放課後現場を良くする仕事に繋がりたいと思っています。そして、日本や世界の子どもたちにもっと広い世界や選択肢を届けられる環境づくりをしたいと思いますので、もしかしたら自分でも何か小さく始めているかもしれません！今のビヨンド生には、「どんな人からも学び取れるものがある」という姿勢で一つ一つの出会いを大切にしてほしいなと思います。そして、自分の考え、気持ち、価値観、夢を口に出して言うことを恐れずに、どんどん声にしてほしいなと思います。



現役活動時

西岡 大穂さん

・大手IT企業 SaaS 領域プロダクトデザイン室
プロダクトマネージャー
・ ONESTRUCTURE 株式会社代表取締役 CEO



高校3年の時、教室の後ろの掲示板にビヨンドトゥモローのイベント案内のパンフレットが貼ってありました。高校時代、被災地に何度か足を運んでいた自分は、被災地の悲惨さを目の当たりにしていたので、ビヨンドトゥモローが東北の同世代を応援した組織であることに惹かれました。そして全国の同世代の人たちと語らうことができるという点に興味を持ったことを覚えています。

一番印象的だったことは、参加する同世代のメンバーみんなが等身大で語り合っていたことです。友達にも常に本音や等身大で話せるとは限らない中で、ビヨンドトゥモローでは、参加している学生が自分の言葉で話をしていました。自分の思ったことを素直に言葉にしてもいいんだ。言葉にすることでしか人に伝わらないのだなということが自分にとって一番の学びでした。

大学時代、日本で一番人口の少ない鳥取県に住んでいました。農業高校に通っていたため、最初は農業分野で起業したいと考え、鳥取県の農家さんを回っていました。そんな時、偶然の出会いから日本財団という組織のインターン生として、地域の NPO 法人などの定性・定量調査に取り組みことになりました。その中で地域の事業者と関わりが深くなり、地方では農業以外の多くの産業の課題も目の当たりにします。そして、「農業だけでなく、日本のレガシーな産業をテクノロジで少しでもより良くしていきたい」と考えるようになりました。そんな中で最初の一步として大学4年の時に建設テックのベンチャーを創業しています。

自分で会社もやり始めていましたが、この先の人生を考えた時に今の自分では為せることが小さすぎるという壁にぶち当たっていました。今の自分を超えていくためにも、一度就職しようと考えました。考えたことは2つで、1つ目は、社会にインパクトのあるビジネスを展開している会社の事業に携わり、ビジネス構造を知ること。2つ目は、個人として「ビジネス・テクノロジ・クリエイティブ（デザイン）」の3方面の能力を高めること。どちらも、自分自身が経営者として、会社に関わる人を幸せにしながら社会をより良い方向に進めるために必要なことだと思い、大手IT企業に就職することにしました。

最初は海外のエンジニアとプロダクト開発に取り組む部署でキャリアをスタートします。そこか

ら、SaaS領域の新規事業部署に異動になり、プロダクトマネージャーとして新しいプロダクトのグロースに取り組んでいます。たくさんユーザーに使われているため、良い反応も悪い反応もたくさんいただきます。自分の考えたサービスが、ユーザーの不便を解消したとき、SNSなどで褒めてもらえることがあって、それはやりがいになっています。

今振り返ると、ビヨンドトゥモローでの経験は「逆境の捉え方が変わったこと」と「色んな価値観の人と対話する価値を知れたこと」が非常に役に立っています。今まで辛いことは自分を苦しめていると思っていたのですが、逆境というのは乗り越えた時に自分の大きな糧になることや、そのためには多くの人と対話することが良いということも教えてもらいました。

今後としては抽象的ですが、レガシーな産業をより良くすることを通じて、自分の周りや次の世代を押し上げたいと思っています。自分の会社では、2年前には高卒の学生を採用して育成し、今ではグローバル案件に鳥取県という地からチャレンジしてもらっています。今はわずかな雇用しか生み出せていないので、今後も働く人がやりがいをもち、働ける魅力的な会社として成長させていき、地方から日本の産業を元気にしていきたいと思っています。



現役活動時

逆境を糧に、多様性に富む社会を リードしてほしい

ビヨンドトゥモロー 理事 木山 啓子

特定非営利活動法人ジェン (JEN) 理事・事務局長



国際協力の現場で出会う方々は、何世代にも渡って住んできた家を追われる、家族を亡くすなど、災害や紛争で計り知れない悲しみを心に抱えながら、経済的にも厳しい暮らしを強いられながら、哲学者の様な含蓄のある言葉を語り、はっとさせられます。ビヨンドトゥモローで出会う学生の皆さんも、逆境と向き合いながらとても魅力的に、自然なリーダーシップを発揮されています。逆境が、優れたリーダーを育てるというビヨンドトゥモローの信念が事実として立ち現れるのを垣間見る瞬間です。背景も人となりも多様な若者たちが、その多様さを認め、支え合いながらさらに成長する場をビヨンドトゥモローが提供できていることを嬉しく、誇りに思います。同時に、より多くのこうした若者に参加していただける機会を作りたいと強く願っています。皆様からの更なるサポートをよろしくお願いたします。

応援サポーター

逆境を経験した若者たちの可能性を応援します

宇宙飛行士 山崎 直子 様

地球は丸くて青い「宇宙船地球号」だと、知識だけでなく自分ごととして腑に落ちた時に、地球上の課題がより身近に感じるようになりました。正解がない、答えが一つでない時代では、様々な課題を実感し、共感し、自分ごととして捉えることが特に大切になると思います。大人も葛藤の連続ですが、逆境を経験した若者たちが、迷いながらもその経験をバネにしていく過程で、自分が成長するだけでなく、きっと周りにも影響を与えるはずで。そうした皆さんの可能性をビヨンドトゥモローと共に応援しています。



若い人が自由に活動できる社会を

将棋棋士 羽生 善治 様

昨今は先行きの見えない不安定な時代が続いています。しかし、次を担う若い人々が自由に活動が出来る環境さえ整えば、自然に活気も生まれ未来に対する夢や希望も見いだせると考えています。ビヨンドトゥモローは、そんな社会に必要とされる人々に様々なサポートをして成長の機会を与えてゆく存在です。これからも変わらぬ応援の程をよろしくお願致します。



私たちの未来を担う次世代をサポートする BEYOND Tomorrow

歌手 早見 優 様

先日ハワイへ旅立つ学生の皆さんと会ったときに、彼らの鋭いかつ希望に満ちた観点こそ未来を創っていくリーダーだと確信しました！

語学や異文化に触れてこそ新たな世界観を広げるチャンス。国境を越えて友人や異なる視点を持つ人々との出会いはきっと宝物になるでしょう。彼らが社会の各所で活躍し、寛容な社会作りを実現できるよう、私たちの未来を担う次世代をサポートする BEYOND Tomorrow を応援します。



ご協力企業様からのメッセージ

モルガン・ルイス & バッキアス法律事務所 /
モルガン・ルイス & バッキアス外国法事務弁護士事務所 (外国法共同事業)

弁護士 佐藤 菜緒 様

モルガン・ルイス東京オフィスは、社会的・経済的な困難に立ち向かおうとする若者の支援という目的に賛同し、プロボノ活動として、ビヨンドトゥモローの活動に伴う法的手続の履践や法的問題の解決をサポートしております。この活動を通して、私どもは数多くの才能ある若者が社会の支援を必要としていることを改めて実感し、また彼らが社会に羽ばたいていく過程を見届けられることを大変うれしく思っております。金銭的な支援のみならず、逆境にも負けず社会の役に立ちたいと大きな志を持つ若者の自主性を育てるビヨンドトゥモローの活動について、ほんの少しの手助けをできることは、私たち弁護士及び関連職種にある者にとってかけがえのない財産です。

Morgan Lewis



東京南ロータリークラブ
2020-2021年度 青少年奉仕委員長

浅井 勇介 様

支援をするきっかけは、私が当クラブの青少年奉仕委員長（当時）だった2020年9月に貴基金の代表理事を務めている橋本大二郎氏の講演を聞き、貴基金の理念・活動に感銘を受けたことがきっかけでした。

私は、当クラブ週報記載の青少年奉仕委員長就任挨拶で、我が国における相対的貧困率の上昇と貧困層の若者が教育を受ける機会を奪われることを問題意識として述べていました。

自分自身の日本育英会奨学金が無かったら大学進学出来なかったという境遇に鑑み、「逆境は優れたリーダーを創る」という貴基金の活動理念に共鳴し、貴基金をサポートしたい旨熱く当クラブ理事会で説明をすることで、2021年1月に初めて貴基金に支援をさせていただきました。

そしてこの度2年ぶりにクラブとして支援をさせていただくことを決めた次第です。今後とも優れたリーダーを創ってください。

Rotary
東京南
ロータリークラブ



BofA 証券株式会社 取締役副社長

林 礼子 様

東日本大震災、あるいは社会的、経済的困難を経験した子供たちが、それぞれの個性や能力を生かして優れたリーダーになっていくことが、私たちの住む社会を誰にとっても安心安全なものにしていくと考え、それを支えるビヨンドトゥモローの活動は大変意義のあるものと感じております。その活動を微力ながら10年余にわたり、お手伝いしてきたことを通じて弊社も多くの学びと気づきを頂いております。先日も、コロナ禍で久しく実現できなかった対面でのイベントを弊社で行ない、参加した弊社の社員もあらためて多くの刺激を受けました。今後も、ビヨンドの皆さんと、一緒に考え、議論していく機会を楽しみにしております。

BANK OF AMERICA



【ご寄付のお願い】

ビヨンドトゥモローの活動の全てが、活動の趣旨にご賛同くださった多くの企業・個人の皆様からのご寄付・ご支援によって支えられています。

困難な体験を糧に、前に進もうとする若者を応援すべく、皆様のご支援をお願い申し上げます。

下記ウェブサイトから直接ご寄付のお申込みをいただくことができます
<https://beyond-tomorrow.org/donate/>

ご支援についてのお問い合わせ先 電話 03-5453-8030 電子メール info@beyond-tomorrow.org



オンライン決済、銀行振り込みなどによるご寄付

銀行振込、クレジットカード払い、Tポイント、楽天Payなどで、ご寄付をいただくことができます。詳しくは、当財団ウェブサイトまたはお電話でお問い合わせください。



遺贈によるご寄付

遺言状や遺言信託による遺贈寄付の他、相続によるご寄付、お香典のご寄付をいただくことで、ご自身の財産や大切な方のご遺志を、未来を担う次世代の若者支援にご活用いただけます。遺言書の作成や、財産のご寄付について相談できる、信託銀行及び弁護士などの専門家のご紹介を希望される方は、当財団までお問い合わせください。



商品やサービスによるご支援

物品やサービスの無償でのご提供や、オフィスなど施設・会場の提供、プロボノでのアドバイザーのご協力など、様々な形でご支援をいただくことができます。

【ご寄付による税制優遇について】 共感助成を通じたご寄付により、寄付金控除の優遇措置を受けることができます。詳しくはお問合せ下さい。

【組織体制】

理事	橋本 大二郎 (代表理事)	元高知県知事
	小林 正忠	楽天グループ株式会社 常務執行役員 チーフ ウェルビーイング オフィサー
	木山 啓子	特定非営利活動法人 ジェン(JEN) 理事・事務局長
	本庄 竜介	グリーンコア株式会社 代表取締役
	村瀬 悟	メイヤー・ブラウン法律事務所 弁護士
評議員	塩崎 恭久	前衆議院議員・一般財団法人勤草日本イニシアティブ代表理事
	宮城 治男	NPO 法人 ETIC. 創業者
	小宮山 利恵子	スタディサプリ教育 AI 研究所所長・東京学芸大学大学院准教授
アドバイザー	阿川 尚之	慶應義塾大学 名誉教授
	竹中 平蔵	慶應義塾大学 名誉教授、元国務大臣
監事	上滝 賢二	元日本放送協会理事

新評議員からのメッセージ (23年度より就任)

小宮山 利恵子 スタディサプリ教育 AI 研究所所長
東京学芸大学大学院准教授

視野を広げることが社会の変革に繋がる

私自身、ひとり親家庭で育ち、経済的にも精神的にも困難な時期がありました。ただ、有難いことにいつも助けしてくれる大人たちがいて学び続けることができました。学び続けることによって、多くのチャンスの扉が開きました。机上の学びだけではなく、多くの人や文化と出会い視野を広げることで、自分自身や日本の社会について理解を深めることができます。ビヨンドトゥモローのプログラムに参加することによって、そのような体験ができると確信しています。これからも微力ながら同プログラムの支援をしたいと考えています。



一般財団法人教育支援グローバル基金 及び ビヨンドトゥモローについて

一般財団法人教育支援グローバル基金は、共感力ある次世代のグローバル・シティズン(地球市民)の輩出をめざす「ビヨンドトゥモロー」の運営を行っている非営利の財団法人です。「逆境は優れたリーダーを創る」を理念に、次世代を担う資質を持ちながらも、親との死別・離別を経験したり、児童養護施設に暮らすなどの困難を経験した若者を対象に、奨学金支給及び人材育成プログラムの開催を行い、広い視点、深い共感力をもって社会のことを考えることのできる人材輩出をめざしています。

【設立年月日】2011年6月1日 【ウェブサイト】<https://beyond-tomorrow.org/>

【所在地】〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-26-18 園ビルディング 1F

【電話】03-5453-8030 【FAX】03-6745-9100 【メール】info@beyond-tomorrow.org

是非「いいね!」ボタンを押したり、
投稿のシェアで応援をお願い致します!



プログラムの様子や最新情報を発信しています!



@beyondtomorroworg



@beyondtomorrowjapan



@tomorrow_beyond

